

# 定期作況報告

平成25年11月  
(11月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1) 融雪期以降の経過

**4月**：平均気温は上旬が平年より高く、中旬・下旬はともにやや低かった。月平均気温は3.9℃で平年と同等であった。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は平年並で、下旬はやや少なく、月合計は63.0mmで平年並であった。日照時間は上旬・中旬がともに平年並で、下旬は平年よりやや少なく、月合計は158.5時間で平年並であった。

**5月**：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬は低く、下旬は極めて高かった。月平均気温は8.3℃で平年より低かった(-1.7℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬はやや多く、下旬は少なく、月合計は24.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬・中旬がともに平年より少なく、下旬は平年並で、月合計は101.5時間で平年より少なかった。

**6月**：平均気温は上旬が平年並で、中旬は高く、下旬は極めて低かった。月平均気温は15.4℃で平年並であった(-0.2℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は平年並で、下旬は多く、月合計は74.5mmで平年並であった。日照時間は上旬・中旬・下旬がともに平年並で、月合計は177.5時間で平年並であった。

**7月**：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬・下旬はともに高かった。月平均気温は20.6℃で平年より極めて高かった(+2.5℃)。降水量は上旬・中旬・下旬ともに平年より少なく、月合計は14.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並で、中旬は多く、下旬は平年並で、月合計は212.2時間で平年よりやや多かった。

**8月**：平均気温は上旬が平年よりやや低く、中旬は高く、下旬はやや低かった。月平均気温は19.9℃で平年並であった(-0.3℃)。降水量は上旬・中旬がともに平年より少なく、下旬は極めて多く、月合計は128.0mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年並で、中旬・下旬はともに少なく、月合計は108.8時間で平年よりやや少なかった。

**9月**：平均気温は上旬が平年よりやや低く、中旬・下旬はともに平年並であった。月平均気温は15.6℃で平年並であった(-0.4℃)。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬・下旬はともに極めて多く、月合計は208.5mmで平年より多かった。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬・下旬はともに平年並で、月合計は147.5時間で平年並であった。

**10月**：平均気温は上旬が平年より高く、中旬はやや低く、下旬は平年並であった。月平均気温は8.9℃で平年並であった(+0.1℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は極めて多く、下旬は多く、月合計は125.5mmで平年より多かった。日照時間は上旬・中旬・下旬がともに平年並で、月合計は161.0時間で平年並であった。

**11月**：平均気温は上旬・中旬ともに平年並であった。中旬までの平均気温は3.1℃で平年並であった(-0.4℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は平年並で、中旬までの合計は35.5mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬・中旬ともに平年並で、中旬までの合計は85.4時間で平年並であった。

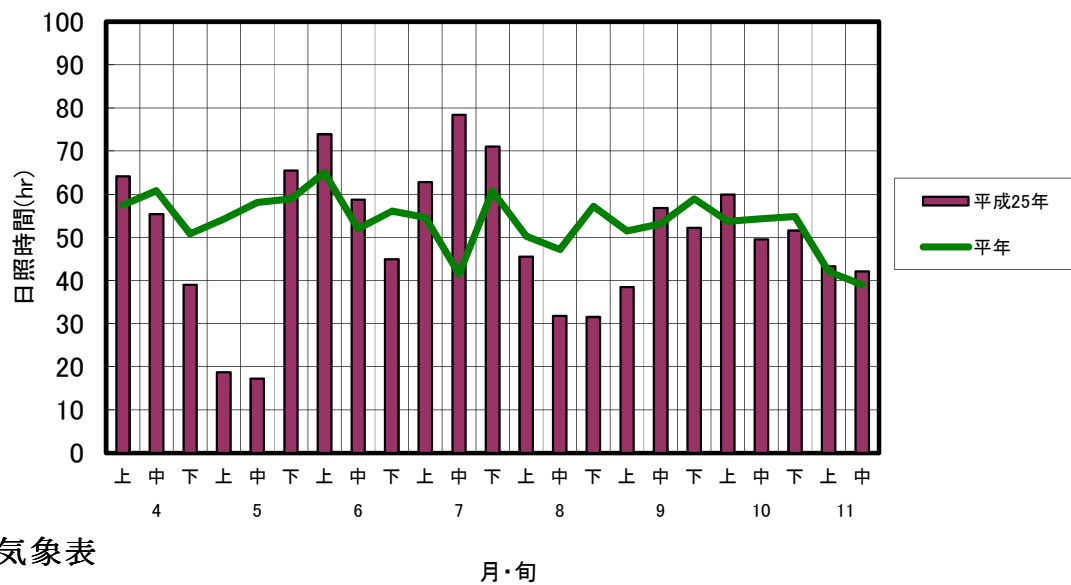
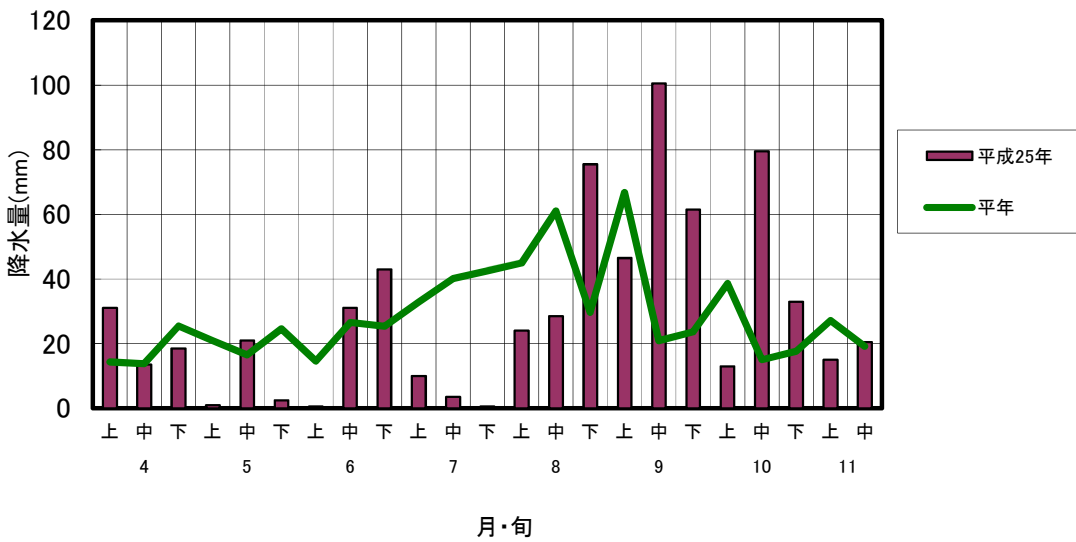
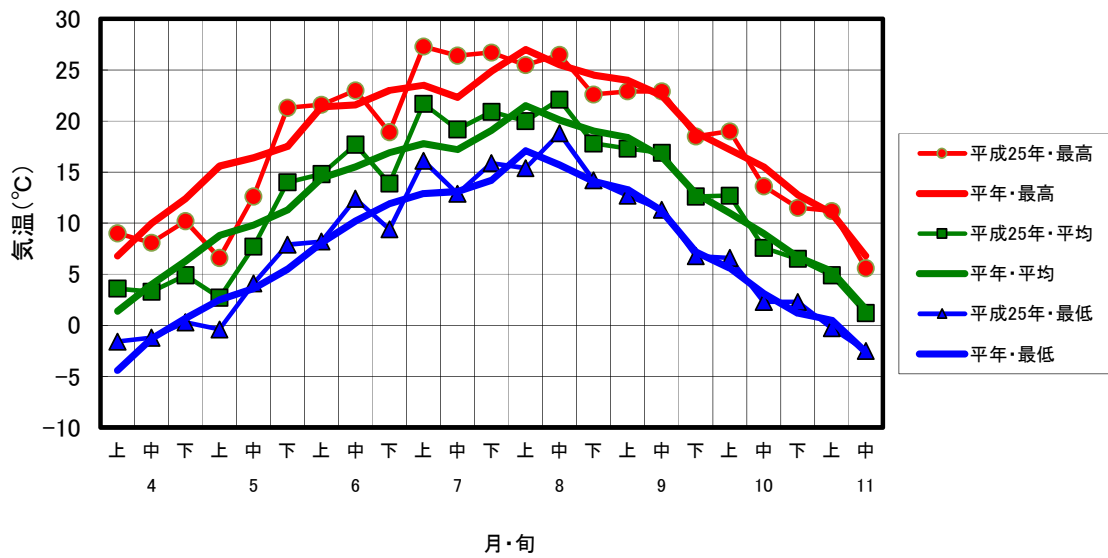
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気温**：5月は平年より低く、6月は平年並で、7月は極めて高く、8月・9月は平年並であった。この期間の日平均気温の積算値は2443.4℃で平年並であった(平年差+4.8℃、平年比100%)。

**降水量**：5月は平年より少なく、6月は平年並で、7月は少なく、8月は平年並で、9月は多かった。この期間の降水量の積算は449.5mmで平年よりやや少なかった(平年差-40.9mm、平年比92%)。

**日照時間**：5月は平年より少なく、6月は平年並で、7月はやや多く、8月はやや少なく、9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は747.5時間で平年よりやや少なかった(平年差-71.7時間、平年比91%)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



## 3) 気象表

月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
4	上	3.6	1.4	2.2	9.0	6.8	2.2	-1.6	-4.4	2.8	31.0	14.3	16.7	64.1	57.5	6.6
	中	3.3	4.0	△0.7	8.1	10.0	△1.9	-1.2	-1.3	0.1	13.5	13.8	△0.3	55.4	60.8	△5.4
	下	4.9	6.3	△1.4	10.2	12.4	△2.2	0.3	0.7	△0.4	18.5	25.5	△7.0	39.0	50.8	△11.8
5	上	2.7	8.8	△6.1	6.6	15.6	△9.0	-0.4	2.5	△2.9	1.0	20.9	△19.9	18.7	54.2	△35.5
	中	7.7	9.8	△2.1	12.6	16.4	△3.8	4.1	3.6	0.5	21.0	16.5	4.5	17.3	58.1	△40.8
	下	14.0	11.3	2.7	21.3	17.5	3.8	7.9	5.5	2.4	2.5	24.6	△22.1	65.5	58.9	6.6
6	上	14.8	14.4	0.4	21.6	21.4	0.2	8.2	8.1	0.1	0.5	14.6	△14.1	73.9	65.0	8.9
	中	17.7	15.5	2.2	23.0	21.6	1.4	12.4	10.2	2.2	31.0	26.5	4.5	58.7	52.0	6.7
	下	13.9	16.9	△3.0	18.9	23.0	△4.1	9.4	11.9	△2.5	43.0	25.4	17.6	44.9	56.1	△11.2
7	上	21.7	17.8	3.9	27.3	23.5	3.8	16.1	12.9	3.2	10.0	32.9	△22.9	62.8	54.6	8.2
	中	19.2	17.2	2.0	26.4	22.3	4.1	12.9	13.1	△0.2	3.5	40.1	△36.6	78.4	41.5	36.9
	下	20.9	19.1	1.8	26.7	24.9	1.8	15.9	14.2	1.7	0.5	42.5	△42.0	71.0	60.7	10.3
8	上	20.0	21.5	△1.5	25.5	27.0	△1.5	15.4	17.1	△1.7	24.0	44.9	△20.9	45.5	50.3	△4.8
	中	22.1	20.1	2.0	26.5	25.5	1.0	18.8	15.7	3.1	28.5	61.1	△32.6	31.8	47.2	△15.4
	下	17.8	19.0	△1.2	22.6	24.5	△1.9	14.2	14.1	0.1	75.5	29.7	45.8	31.5	57.2	△25.7
9	上	17.3	18.4	△1.1	22.9	24.0	△1.1	12.7	13.3	△0.6	46.5	66.8	△20.3	38.5	51.5	△13.0
	中	16.9	16.5	0.4	22.9	22.5	0.4	11.3	11.2	0.1	100.5	20.9	79.6	56.8	53.1	3.7
	下	12.6	12.9	△0.3	18.5	18.9	△0.4	6.8	7.2	△0.4	61.5	23.6	37.9	52.2	58.9	△6.7
10	上	12.7	11.0	1.7	19.0	17.2	1.8	6.6	5.6	1.0	13.0	38.6	△25.6	59.9	53.7	6.2
	中	7.6	9.0	△1.4	13.6	15.5	△1.9	2.3	3.1	△0.8	79.5	15.0	64.5	49.5	54.3	△4.8
	下	6.5	6.7	△0.2	11.5	12.8	△1.3	2.3	1.2	1.1	33.0	17.7	15.3	51.6	54.8	△3.2
11	上	4.9	5.3	△0.4	11.2	11.0	0.2	-0.3	0.5	△0.8	15.0	27.1	△12.1	43.3	42.1	1.2
	中	1.2	1.6	△0.4	5.6	6.8	△1.2	-2.5	-2.6	0.1	20.5	19.2	1.3	42.1	39.0	3.1

注) 観測値は気象庁ホームページの気象統計情報で公開している置戸町境野のアメダスによる。  
 観測統計の解説は<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html>を参照。  
 本年の値は確定前の速報値を含む。平年値は前10か年の平均値である。

#### 4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪 期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5~9月)		
										平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	H24年 11.27	4.10	135	4.17	5.8	5.9	10.14	157	10.16	2443.4	449.5	747.5
平年	12.6	4.11	127	4.29	5.5	5.11	10.11	152	11.2	2438.6	490.4	819.2
比較	△9	△1	8	△12	3	△2	3	5	△17	4.8	△40.9	△71.7

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。  
 平年値は前10か年データの平均値である。

## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（平成24年9月播種） 作 況：良

事 由：播種は平年より3日遅い9月19日に行った。播種後の気温は高かったが種子の休眠が深かったため出芽期は平年より4日遅い9月28日であった。出芽期以降の平均気温は平年並から高く推移し、越冬前の草丈は平年並であった。茎数は平年より少なかったが、越冬に必要な生育量は十分確保できていた。根雪始は平年より9日早い11月27日、融雪期は平年より1日早い4月10日で、根雪期間は平年より8日間長かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期は観測点より10日程度早い4月1日であった。雪腐病の発生は少なかった。

融雪期以降、気温は低く経過したため、生育は緩慢となったが、5月下旬から6月中旬の平均気温が平年並から高く推移したため、生育の遅れは回復し、出穂期は平年より1日遅い6月12日であった。6月下旬の気温は平年より低かったが、7月上旬～中旬の気温が平年より高かったため、登熟は進み、成熟期は平年より2日早い7月25日であった。稈長、穂長、穂数は平年並で、子実重は平年比107%と多かった。倒伏は未発生であった。登熟期間は平年より3日短かったものの、7月中旬の日照時間が平年よりも多かったことから子実の充実は良好となり、リットル重および千粒重は平年を上回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成24年月.日)	9.19	9.16	3
出芽期 (平成24年月.日)	9.28	9.24	4
出穂期 (平成25年月.日)	6.12	6.11	1
成熟期 (平成25年月.日)	7.25	7.27	△2
草丈(cm) (平成24年11月20日)	19.1	19.4	△0.3
草丈(cm) (平成25年5月20日)	30.3	37.3	△7.0
草丈(cm) (平成25年6月20日)	87.9	88.9	△1.0
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (平成24年11月20日)	1301	1649	△348
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (平成25年5月20日)	1448	1535	△87
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (平成25年6月20日)	798	813	△15
稈長(cm) (成熟期)	84	87	△3
穂長(cm) (成熟期)	8.2	8.4	△0.2
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (成熟期)	774	767	7
子実重(kg/10a)	736	686	50
同上平年比(%)	107	100	7
リットル重(g)	804	793	11
千粒重(g)	38.5	35.9	2.6
品質(検査等級)	1	2	-

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成19年(最凶)、24年(最豊)を除く5カ年の平均値。

2) 秋まき小麦（平成25年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より1日早い9月15日に行った。播種後の気温は平年並からやや高く推移したため、出芽期は平年より3日早い9月22日であった。平均気温は、降雪のあった10月中旬を除き、平年並～やや高かった。降水量は9月中下旬および10月上中旬が多く、10月16日の降雪で作物は一時的に積雪下となった。越冬前の草丈は平年並である。茎数は平年より少ないが、越冬に必要な生育量は確保できている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成25年月.日)	9.15	9.16	△ 1
出芽期 (平成25年月.日)	9.22	9.25	△ 3
草丈(cm) (平成25年11月20日)	19.3	18.9	0.4
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (平成25年11月20日)	1107	1564	△ 457

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成19年(最凶)、25年(最豊)を除く5カ年の平均値。

3) 春まき小麦

作 況：平年並

事 由：融雪期は平年より1日早い4月10日であったが、調査圃場は融雪剤散布により10日程度融雪が早まった。播種期は平年より5日早い4月15日であったが、播種後の気温が全般に低く推移したことから、出芽期は平年より1日遅かった。出芽後の5月上旬から中旬は気温が低かったため、5月20日の草丈、茎数は平年を下回っていた。その後は気温が高く推移したため、生育の遅れは回復した。出穂期は平年に比べ1日早く、成熟期は平年に比べ5日早くなり、登熟期間は平年より4日短かかった。稈長・穂長は平年並であったが、穂数は平年より少なかった。子実重は平年対比97%であった。7月の日照時間は平年より長く、子実の充実が良好となったため、リットル重は平年をやや上回り、千粒重は平年並であった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.15	4.20	△ 5	4.15	4.20	△ 5	
出芽期 (月.日)	5.6	5.5	1	5.9	5.4	5	
出穂期 (月.日)	6.24	6.25	△ 1	6.23	6.24	△ 1	
成熟期 (月.日)	8.3	8.8	△ 5	8.6	8.10	△ 4	
草丈(cm)	(5月20日)	9.4	14.8	△ 5.4	9.5	15.5	△ 6.0
	(6月20日)	64.8	65.9	△ 1.1	63.9	67.5	△ 3.6
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(5月20日)	337	360	△ 23	335	371	△ 36
	(6月20日)	715	868	△ 153	714	849	△ 135
稈長(cm) (7月20日)	91	93	△ 2	89	93	△ 4	
穂長(cm) (7月20日)	7.9	8.3	△ 0.4	7.3	7.4	△ 0.1	
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	463	571	△ 108	494	596	△ 102	
子実重(kg/10a)	458	474	△ 16	469	465	4	
同上平年比 (%)	97	100	△ 3	101	100	1	
リットル重 (g)	819	795	24	817	800	17	
千粒重 (g)	40.0	39.7	0.3	42.7	41.5	1.2	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。  
「はるきらり(参考)」の平年値は前6か年の平均。

## 4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 不良

事 由 : 播種期は平年と同日の5月17日、出芽期は平年より1日遅い6月1日であった。6月下旬の気温が平年より低かったが、7月の気温が平年より高く、日照時間も多かったため、開花期および抽糸期は、それぞれ平年より4日および3日早かった。一方、7月以降8月中旬にかけて、降水量が平年より少なく推移したため、この間の草丈は平年を下回って推移し、稈長(9月20日調査)は平年を48cm下回った。収穫期は平年より1日早い9月24日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年よりやや遅れ、総体の乾物率は平年並であった。乾物茎葉重および乾物雌穂重は平年より少なく、乾物総重ならびに推定TDN収量は、それぞれ平年対比84%、85%といずれも低収であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.17	5.17	0	
出芽期 (月.日)	6.1	5.31	1	
開花期 (月.日)	8.1	8.5	△4	
抽糸期 (月.日)	8.1	8.4	△3	
収穫期 (月.日)	9.24	9.25	△1	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初～中期		
草丈(cm)	(6月20日)	32.7	28.1	4.6
	(7月20日)	153.1	163.2	△10.1
	(8月20日)	262.1	309.7	△47.6
稈長(cm)	(9月20日)	228	276	△48
葉数(枚)	(6月20日)	4.9	4.5	0.4
	(7月20日)	12.3	12.1	0.2
	(8月20日)	14.8	14.8	0.0
生総重(kg/10a)	5334	6574	△1240	
乾物茎葉重(kg/10a)	742	943	△201	
乾物雌穂重(kg/10a)	927	1047	△120	
乾物総重(kg/10a)	1669	1990	△321	
同上平年比 (%)	84	100	△16	
推定TDN収量(kg/10a)	1219	1439	△220	
同上平年比 (%)	85	100	△15	
総体の乾物率 (%)	31.2	30.4	0.8	
乾雌穂重割合 (%)	55.6	52.7	2.9	
有効雌穂割合 (%)	100.0	100.0	0.0	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。



## 5) 大豆

## 作 況：平年並

事由：平年並の5月24日に播種を行った。播種後の気温が平年並～高かったため出芽期は平年より4日早かった。7月上中旬は少雨であったものの気温が高かったため、生育は進み生育初期の主茎長および本葉数は平年を大きく上回り、開花始は平年より6日早かった。7月下旬から8月中旬の少雨の影響により生育はやや抑制されたものの、8月以降も主茎長は平年より長く推移した。登熟期間の気温が平年並から高く推移したため、成熟期は平年より4日早かった。着莢数は平年並で一莢内粒数が平年を上回ったものの、百粒重が平年をやや下回ったため、子実重は平年比103%であった。品質は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.24	0	
出芽期 (月.日)	6.4	6.8	△ 4	
開花始 (月.日)	7.14	7.20	△ 6	
成熟期 (月.日)	9.23	9.27	△ 4	
主茎長 (cm)	(6月20日)	15.0	8.8	6.2
	(7月20日)	59.1	45.4	13.7
	(8月20日)	69.9	64.0	5.9
	(9月20日)	70.5	63.4	7.1
	(成熟期)	70.5	63.4	7.1
本葉数 (枚)	(6月20日)	2.2	0.6	1.6
	(7月20日)	8.3	6.4	1.9
主茎節数	(8月20日)	11.3	11.0	0.3
	(9月20日)	11.4	10.9	0.5
	(成熟期)	11.4	10.9	0.5
分枝数 (本/株)	(7月20日)	6.7	3.0	3.7
	(8月20日)	7.1	5.2	1.9
	(9月20日)	6.5	4.9	1.6
	(成熟期)	6.5	4.9	1.6
着莢数 (個/株)	(8月20日)	73.6	70.6	3.0
	(9月20日)	67.7	67.5	0.2
	(成熟期)	67.7	67.5	0.2
一莢内粒数	1.94	1.77	0.17	
子実重 (kg/10a)	391	378	13	
同上平年比 (%)	103	100	3	
百粒重 (g)	36.1	37.2	△ 1.1	
屑粒率 (%)	1.1	1.7	△ 0.6	
品質 (検査等級)	2中	2中	—	

注1) 平年値は、前7か年中21年(最凶)、平成23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 6) 小豆

作 況：不良

事由：平年並の5月24日に播種を行った。播種後の気温が平年並～高かったため出芽期は平年より2～3日早かった。7月上中旬は少雨であったものの気温が高かったため生育は進み、生育初期の主茎長、本葉数、分枝数はいずれも平年を上回り、開花始は平年より「サホロシヨウズ」が5日、「エリモシヨウズ」が1日、それぞれ早かった。7月下旬から8月中旬が少雨であったことから節間伸長は抑制され、8月以降の主茎長は平年より短く推移した。成熟期は平年より「サホロシヨウズ」で5日、「エリモシヨウズ」で7日、それぞれ早かった。開花始が早く着莢が早く進んだため8月の着莢数は多かったが、自然落莢により減少し成熟期には平年並であった。百粒重が平年を下回ったため、子実重は「サホロシヨウズ」が平年比93%、「エリモシヨウズ」が同87%であった。品質は、いずれの品種も平年よりやや劣った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.24	0	5.24	5.24	0	
出芽期 (月.日)	6.9	6.11	△ 2	6.9	6.12	△ 3	
開花始 (月.日)	7.20	7.25	△ 5	7.25	7.26	△ 1	
成熟期 (月.日)	9.13	9.18	△ 5	9.17	9.24	△ 7	
主茎長 (cm)	(6月20日)	4.5	3.1	1.4	5.0	3.2	1.8
	(7月20日)	21.4	17.7	3.7	21.6	16.8	4.8
	(8月20日)	52.2	70.7	△ 18.5	46.4	61.0	△ 14.6
	(9月20日)	52.9	83.9	△ 31.0	46.5	69.8	△ 23.3
	(成熟期)	52.9	83.9	△ 31.0	46.5	69.8	△ 23.3
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.3	0.3	1.0	1.3	0.3	1.0
	(7月20日)	7.4	5.8	1.6	7.6	5.8	1.8
主茎節数	(8月20日)	13.3	13.1	0.2	13.9	13.7	0.2
	(9月20日)	13.5	13.9	△ 0.4	14.3	14.3	0.0
	(成熟期)	13.5	13.9	△ 0.4	14.3	14.3	0.0
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.9	1.6	3.3	4.7	1.5	3.2
	(8月20日)	4.9	4.7	0.2	4.9	4.4	0.5
	(9月20日)	5.0	4.1	0.9	4.3	3.9	0.4
	(成熟期)	5.0	4.1	0.9	4.3	3.9	0.4
着莢数 (個/株)	(8月20日)	66.2	56.3	9.9	75.6	57.2	18.4
	(9月20日)	60.6	61.6	△ 1.0	63.8	61.9	1.9
	(成熟期)	60.6	62.3	△ 1.7	63.8	62.9	0.9
一莢内粒数	5.84	5.84	0.00	6.04	6.39	△ 0.35	
子実重 (kg/10a)	383	410	△ 27	393	450	△ 57	
同上平年比 (%)	93	100	△ 7	87	100	△ 13	
百粒重 (g)	13.0	15.0	△ 2.0	12.1	14.4	△ 2.3	
屑粒率 (%)	1.0	2.1	△ 1.1	0.4	2.1	△ 1.7	
品質 (検査等級)	4上	3下	—	4上	3下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 7) 菜豆

作況：不良

事由：平年より1日遅い5月24日に播種を行った。播種後の気温が平年並～高かったため出芽期は平年より3日早かった。7月の草丈は平年並であったが、7月下旬から8月中旬の少雨により生育が抑制され、その後は平年より短く推移した。7月上旬の高温により開花始は平年より3日早かった。登熟期間の気温が平年より高く推移したため、成熟期は平年より11日早かった。開花始以降の高温少雨により、着莢数が平年をやや下回り、一莢内粒数および百粒重も平年を大きく下回ったため、子実重は平年比81%であった。屑粒の発生が少なく、品質は平年より優った。以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.23	1	
出芽期 (月.日)	6.6	6.9	△ 3	
開花始 (月.日)	7.6	7.9	△ 3	
成熟期 (月.日)	8.24	9.4	△ 11	
草丈 (cm)	(6月20日)	12.9	8.1	4.8
	(7月20日)	43.1	40.7	2.4
	(8月20日)	42.3	45.7	△ 3.4
	(9月20日)	42.3	46.7	△ 4.4
	(成熟期)	42.3	46.7	△ 4.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	2.1	0.5	1.6
	(7月20日)	3.1	3.1	0.0
主茎節数	(8月20日)	5.0	5.1	△ 0.1
	(9月20日)	5.0	5.1	△ 0.1
	(成熟期)	5.0	5.1	△ 0.1
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.2	4.2	0.0
	(8月20日)	3.8	5.0	△ 1.2
	(9月20日)	3.8	4.1	△ 0.3
	(成熟期)	3.8	4.1	△ 0.3
着莢数 (個/株)	(8月20日)	18.6	22.1	△ 3.5
	(9月20日)	18.6	20.2	△ 1.6
	(成熟期)	18.6	20.2	△ 1.6
一莢内粒数	2.59	3.13	△ 0.54	
子実重 (kg/10a)	285	354	△ 69	
同上平年比 (%)	81	100	△ 19	
百粒重 (g)	64.7	74.5	△ 9.8	
屑粒率 (%)	1.9	4.4	△ 2.5	
品質 (検査等級)	2中	3上	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 8) ばれいしょ

## 作 況：やや良

事由：植え付けは平年並の5月14日に行った。植え付け後の低温のため、萌芽期は「男爵薯」で平年より4日、「コナフブキ」で平年より5日遅かった。萌芽後の気温は平年より高く、6月以降の茎長は平年並に推移し、開花始は平年並であった。枯ちよう期は「男爵薯」で平年並であったが、「コナフブキ」では8月から9月にかけての日照不足および多雨により平年より4日遅かった。

「男爵薯」は、上いも数、上いも平均重ともに平年をやや上回り、上いも重は平年比110%であった。でん粉価は平年より高かった。「コナフブキ」では、上いも数が平年より多く、上いも平均重は平年を下回ったが、上いも重は平年比104%であった。でん粉価も平年より高かったことから、でん粉重は平年比107%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目		男爵薯			コナフブキ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5.14	5.14	0	5.14	5.14	0
萌芽期	(月.日)	6.7	6.3	4	6.10	6.5	5
開花始	(月.日)	7.2	7.1	1	7.1	7.1	0
枯ちよう期	(月.日)	9.3	9.2	1	10.9	10.5	4
茎長(cm)	(6月20日)	17.6	16.1	1.5	19.6	16.9	2.7
	(7月20日)	49	47	2	72	68	4
	(8月20日)	51	50	1	83	85	△ 2
茎数(本/株)	(6月20日)	3.2	3.6	△ 0.4	3.6	2.9	0.7
	(7月20日)	3.5	3.5	0.0	4.4	3.2	1.2
	(8月20日)	3.1	3.3	△ 0.2	4.3	3.1	1.2
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4492	4350	142	3635	3298	337
	(9月20日)	—	—	—	4857	4759	98
でん粉価(%)	(8月20日)	15.9	15.2	0.7	20.9	20.0	0.9
	(9月20日)	—	—	—	22.2	21.2	1.0
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	1028	960	68
上いも数(個/株)		10.2	9.7	0.5	12.4	9.9	2.5
上いも平均重(g)		107	103	4	93	113	△ 20
上いも重(kg/10a)		4828	4387	441	5126	4939	187
同上平年比(%)		110	100	10	104	100	4
でん粉価(%)		15.5	14.8	0.7	22.1	21.5	0.6
でん粉重(kg/10a)		—	—	—	1081	1014	67
同上平年比(%)		—	—	—	107	100	7

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：やや良

事 由：播種は平年並の3月22日に行ったが、育苗中は平年より低温傾向であったため生育はやや遅れた。

移植は平年より1日遅い5月8日に行った。移植期以降は土壌水分が豊富で活着は順調であったが、引き続き低温傾向に推移したため、生育はやや遅れた。その後、5月下旬より気温が高く日照時間が十分であったため、生育は回復した。7月上旬からは、気温が高く降水量が少なく経過したため干ばつ状態となり、生育が抑制された。8月8日に降雨があって以降は十分な降水量となり、生育は回復傾向となった。その後も気温が平年並で十分な降水量があったことから、生育は順調に進んだ。

収穫は平年より3日遅い10月22日に行った。根重は2品種平均で平年対比106%、根中糖分は同100%、糖量は同105%であった。

以上のことから、今年の作況は「やや良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.22	3.22	0	3.22	3.22	0	5.8	5.4	4	
移植期 (月.日)	5.8	5.7	1	5.8	5.7	1	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.23	5.17	6	
収穫期 (月.日)	10.22	10.19	3	10.22	10.19	3	10.22	10.19	3	
草丈(cm)	(5月20日)	3.9	4.5	△ 0.6	4.6	4.9	△ 0.3	-	-	-
	(6月20日)	28.5	25.1	3.4	27.8	25.3	2.5	14.8	15.2	△ 0.4
	(7月20日)	54.7	56.2	△ 1.5	52.3	52.8	△ 0.5	45.8	55.4	△ 9.6
	(8月20日)	58.4	63.1	△ 4.7	56.4	58.6	△ 2.2	52.8	64.7	△ 11.9
	(9月20日)	57.6	64.6	△ 7.0	58.5	59.1	△ 0.6	56.9	63.1	△ 6.2
生葉数(枚)	(5月20日)	3.8	4.2	△ 0.4	4.0	3.8	0.2	-	-	-
	(6月20日)	13.9	11.2	2.7	12.1	11.0	1.1	7.0	7.2	△ 0.2
	(7月20日)	20.7	21.8	△ 1.1	19.6	20.7	△ 1.1	15.5	16.9	△ 1.4
	(8月20日)	27.1	26.4	0.7	26.4	26.0	0.4	20.8	21.4	△ 0.6
	(9月20日)	32.6	29.9	2.7	30.5	30.1	0.4	22.4	21.1	1.3
茎葉重(g/個体)	(6月20日)	128	89	39	109	92	17	15	16	△ 1
	(7月20日)	454	709	△ 255	459	665	△ 206	304	544	△ 240
	(8月20日)	756	871	△ 115	805	903	△ 98	651	802	△ 151
	(9月20日)	840	865	△ 25	816	961	△ 145	716	674	42
根重(g/個体)	(6月20日)	24	18	6	18	20	△ 2	1	1	0
	(7月20日)	234	267	△ 33	259	281	△ 22	112	151	△ 39
	(8月20日)	828	660	168	835	730	105	648	566	82
	(9月20日)	1168	963	205	1102	1045	57	1001	891	110
根周(cm)	(7月20日)	19.9	21.5	△ 1.6	22.1	22.8	△ 0.7	17.0	18.7	△ 1.7
	(8月20日)	32.1	29.9	2.2	34.3	32.2	2.1	30.6	29.1	1.5
	(9月20日)	36.5	34.4	2.1	37.6	37.1	0.5	34.9	33.8	1.1
根中糖分(%)	(9月20日)	14.41	14.00	0.41	15.19	14.20	0.99	14.84	13.49	1.35

表 その 2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ (参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	6057	5453	604	6096	5838	258	5130	3798	1332
根重 (kg/10a) (収穫期)	7703	7153	550	7755	7455	300	7548	6344	1204
同上平年比(%)	108	100	8	104	100	4	119	100	19
根中糖分 (%)	16.36	16.80	△ 0.44	17.03	17.00	0.03	16.74	16.65	0.09
同上平年比(%)	97	100	△ 3	100	100	0	101	100	1
糖量 (kg/10a)	1260	1197	63	1320	1265	55	1264	1052	212
同上平年比(%)	105	100	5	104	100	4	120	100	20

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前3か年の平均。

## 10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 平年並

事 由 : 冬損程度は平年並であった。萌芽期は4月20日と平年より2日早かった。

1 番草 ; 萌芽後 (4月下旬~5月中旬) の気温が平年より低く推移したため、早春 (5月18日) の草丈は平年より低かった。5月下旬から6月中旬にかけて、気温が平年並か平年より高く推移したため、春の低温による生育の遅れは回復傾向を示し、出穂始は平年より2日遅い6月16日、出穂期は平年より1日早い6月18日であった。1番草の草丈は平年よりやや低く、生草収量は少なかったが、乾物収量は平年比99%と平年並であった。

2 番草 ; 7月以降生育期間全般を通して降水量が平年より少なかったため、2番草の生育は緩慢で、節間伸長程度が少なく、草丈は低かった。乾物収量は平年比83%と少なかった。

3 番草 ; 草丈は平年並であったが、乾物収量は平年比110%と平年よりやや多かった。年間合計乾物収量は、平年比97%と平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.20	4.22	△2
冬損程度		1.0	1.5	△0.5
被度 (%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.16	6.14	2
出穂期	(月.日)	6.18	6.19	△1
出穂程度	1番草	8.0	6.7	1.3
節間伸長程度	2番草	2.0	3.2	△1.2
刈取日(月.日)	1番草	6.23	6.21	2
	2番草	8.13	8.10	3
	3番草	10.7	10.4	3
倒伏程度	1番草	4.3	2.4	1.9
病害罹病程度	1番草	1.0	1.8	△0.8
	2番草	5.0	3.4	1.6
	3番草	2.0	3.8	△1.8
草丈(cm)	(5月18日)	22	32	△10
	(6月5日)	67	73	△6
	1番草	99	105	△6
	2番草再生時	35	42	△7
	2番草	40	63	△23
	3番草再生時	45	43	2
生草収量(kg/10a)	3番草	44	44	0
	1番草	2572	2841	△269
	2番草	653	923	△270
	合 計	3833	4427	△594
乾物率 (%)	1番草	23.9	22.4	1.5
	2番草	24.7	21.8	2.9
	3番草	29.3	26.4	2.9

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量 (kg/10a)	1番草	614	622	△8
	同上平年比 (%)	99	100	△1
	2番草	161	195	△34
	同上平年比 (%)	83	100	△17
	3番草	178	162	16
	同上平年比 (%)	110	100	10
	合計	953	979	△26
	同上平年比 (%)	97	100	△3

注1) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、平成21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。



## 11) たまねぎ

作 況：不良

事 由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より1日早い3月1日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年より2日遅い3月11日に行った。育苗期間中の気温は低めに推移したが、苗の生育は概ね順調であった。しかし、4月中旬以降の降水と低温・寡照条件により、ほ場の乾きが遅れ、移植は「改良オホーツク1号」では平年より5日、「スーパー北もみじ」では平年より9日遅くなった。

5月下旬から6月中旬の気温は平年並から高く推移し、降水量は平年より少なく、6月20日における生育は「改良オホーツク1号」では草丈および生葉数は平年並で、葉鞘径は平年をやや上回っていたが、「スーパー北もみじ」では葉鞘径は平年並であるものの、草丈および生葉数は平年を下回っていた。球肥大期は平年と比較して「改良オホーツク1号」では1日、「スーパー北もみじ」では4日早かった。7月上旬以降、気温は高く降水量が少なめに推移したため生育はやや緩慢となり、7月20日における生育は、両品種とも草丈および葉身生重が平年をやや下回っていた。倒伏期は平年と比較して「改良オホーツク1号」では9日、「スーパー北もみじ」では6日早かった。7月下旬以降、「スーパー北もみじ」では紅色根腐病の症状が広く認められるようになった。

根切りは「改良オホーツク1号」では8月5日、晩生種「スーパー北もみじ」では8月22日に行った。両品種ともに倒伏期以降の枯葉が甚だしく、枯葉期は平年より13日早まった。このため、球肥大は劣り、平均一球重、総収量、規格内収量は平年を大きく下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	3. 1	3. 2	△ 1	3.11	3. 9	2	
出芽期 (月・日)	3.15	3.15	0	3.24	3.22	2	
移植期 (月・日)	5.10	5. 5	5	5.20	5.11	9	
球肥大期 (月・日)	7. 6	7. 7	△1	7.18	7.22	△4	
倒伏期 (月・日)	7.24	8. 2	△9	8. 6	8.12	△6	
枯葉期 (月・日)	8.10	8.23	△13	8.23	9. 5	△13	
収穫期 (月・日)	8.21	8.30	△9	8.29	9.12	△14	
草丈(cm)	移植時	29.6	25.5	4.1	26.6	23.8	2.8
	(6月20日)	47.5	48.0	△0.5	27.3	33.2	△5.9
	(7月20日)	72.9	80.1	△7.2	72.7	81.8	△9.1
生葉数(枚)	移植時	3.1	3.2	△0.1	3.1	3.3	△0.2
	(6月20日)	6.4	6.7	△0.3	4.9	5.9	△1.0
	(7月20日)	9.1	9.4	△0.3	9.0	10.1	△1.1
葉鞘径(mm)	移植時	4.6	4.0	0.6	4.2	3.9	0.3
	(6月20日)	13.1	11.7	1.4	8.6	8.7	△0.1
	(7月20日)	21.2	21.2	0	20.3	21.6	△1.3
葉身生重(g)	(7月20日)	117.3	142.2	△24.9	98.9	139.6	△40.7
球生重(g)	(7月20日)	115.8	120.9	△5.1	44.5	52.5	△8.0
	(8月20日)	187.8	275.2	△87.4	168.7	241.2	△72.5
総収量(kg/10a)		5254	7798	△2544	5016	6988	△1972
規格内収量(kg/10a)		4127	6573	△2446	4170	6163	△1993
同上平年比(%)		63	100	△37	68	100	△32
規格内率(%)		79	85	△6	83	88	△5
平均一球重(g)		167	265	△98	159	243	△84

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。